

# 筑波大学新聞

第390号

編集責任  
筑波大学新聞  
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail  
shinbun@  
un.tsukuba.ac.jp

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天万台1-1-1

## 注目記事

附属図書館で特別展  
蹴球部2季ぶりの優勝  
柔道 白金世界ジュニアで金  
ドラ3 岡城に単独インタビュー  
自転車盗難被害 昨年から半減

11 10 9 8 5  
ミ ニ 特 集  
3  
雙峰祭コロナ以降初の3日間開催  
半世紀越え 新たに歩み出す  
特 集  
6・7  
少子化時代迎え  
筑波大の教育の将来像に迫る

## 宿舎利用料来春値上げ

一般改修棟は月額 8630 円増

宿舎区分		現状	改定後	
		2017～25年	2026年～	
		宿舎利用料	宿舎利用料	上げ幅
一般宿舎（単身用）	一般（未改修棟）	15380	22590	7210
	一般（改修棟）春日地区以外	19410	28040	8630
	一般（改修棟）春日地区	19615	29920	10305
	追越25～27号棟	31170	39810	8640
	追越27号棟（新）	25955	39810	13855
	追越28号棟	27900	57240	29340
	一の矢10～16号棟（未改修）	23670	44870	21200
	春日3号棟	23711	40290	16579
一般宿舎（世帯用）	一の矢17～19号棟	33826	43290	9464
	一の矢36・37号棟	29785	42350	12565
	春日3号棟（夫婦室）	29177	43550	14373
	春日3号棟（家族室）	33417	55720	22303
ショートステイ用・SCS（短期留学用）	一の矢6・8号棟	23800	33040	9240
	一の矢31～33号棟	44000	92750	48750
	一の矢34・35号棟	36100	51980	15880
	一の矢38号棟	30600	48410	17810
	グローバルヴィレッジ	35800	46260	10460

単位は円 取材を基に作成

筑波大は学生宿舎の利用料を来年4月から値上げする。学生生活課によると、物価高騰による維持管理費の上昇や老朽化に伴う修繕費の増加、宿舎環境の改善（エアコンの全戸設置やセキュリティ向上など）が主な理由で、利用者が最も多い一般改修棟（春日地区を除く）の利用料は月額で8630円増の2万8040円となる。利用料の値上げは2017年度以来9年ぶり、学生には教育情報システム「TWINs」を通じて周知し、説明会も開催するという。（王生奏太11地球学類2年）

これまで学生宿舎の利用料は「寄宿料」として徴収され、その中に共用部分の光熱水料やLAN設備の維持管理費用なども含まれていたが、来年度からは寄宿料と分離し共益費として徴収することにした。学生1人当たり一律8600円を予定しており、宿舎の利用者は毎月、寄宿料と共益費を大学に納付することになる。共益費は今後、物価の変動などに応じて、適宜変更するという。

一方、寄宿料は床面積や設備、改修実績などを基準に月額が設定される。筑波大の学生宿舎は、単身用と世帯用の一般宿舎2539戸、ショートステイハウス（SSH）478戸、グローバルヴィレッジ500戸の計3517戸。最も部屋数が多い一般改修棟の場合、現行の寄宿料は月1万9410円（エアコン未設置）だが、来年度からは寄宿料1万9440円と共益費8600円を合計した2万8040円（エアコン設置後）となる。

また、未改修棟は月1万5380円（エアコン未設置）から7210円増の2万2590円（エアコン設置後・寄宿料1万3990円、共益費8600円）、グローバルヴィレッジは月3万5800円から1万4600円増の4万6260円（寄宿料4万6260円、共益費3万7660円、共益費8600円）となる。

筑波大は「学生宿舎リニューアル（建替え）事業を進めているが、学生生活課によれば、新宿舎の利用開始は30年度以降となる見通しで、それまで既存宿舎を維持する必要があるという。学生部の提案を基に筑波大の教育研究評議会や経営協議会などで議論がなされ、11月27日の役員会で最終承認された。

学生生活課の担当者は「宿舎利用料はできるだけ低廉にしたいと考えてきたが、維持管理費の高騰や宿舎の環境改善のためには、値上げせざるを得ないと判断した」と話した。

宿舎に住む学類3年生は本紙の取材に「物価高や大学の負担を考えれば、値上げは仕方ないだろう。ただ入居率が下がらないか、心配だと話した。

「科学の10年」の取り組みに認定  
サイエンスコミュニケーションP  
筑波大が大学院生向けに開講している「サイエンスコミュニケーションP」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）が設定した「持続可能な開発のための科学の国際10年」の取り組み（イニシアチブ）として認定された。

科学文化機関（ユネスコ）が設定した「持続可能な開発のための科学の国際10年」の取り組み（イニシアチブ）として認定された。筑波大では生命環境学群を中心に、20年以上前からサイエンスコミュニケーションに関する授業を開講してきた伝統がある。

ユネスコから今回認定された同プログラムは、こうした経緯も踏まえ、全学の大学院生を対象として22年度から始まった。理論・スキル・体験の三つのカテゴリからなる13の対象科目の中から6単位を取得することで、修了証が発行される。これまでに25人の大学院生が登録し、うち4人が修了証を取得した。

理論の授業ではサイエンスコミュニケーションの背景、スキルの授業ではプレゼンテーション用のスライドや図を分かりやすく作成する方法などを学ぶ。また、体験の授業では、博物館でサイエンスコミュニケーションの重要性に多くの人が気付いてほしい」と話している。

三浦教授は「科学技術を通じて伝えられるサイエンスコミュニケーションの存在がその発展にもつながる。サイエンスコミュニケーションの重要性に多くの人が気付いてほしい」と話している。（青野心平11物理学類3年）

## 岡城 阪神から3位指名

プロ野球ドラフト 「走力生かしたい」

プロ野球の新人選手選択（ドラフト）会議が10月23日に開かれ、筑波大硬式野球部の岡城快生（体専4年）が阪神タイガースから3位指名を受けた。指名後の会見で岡城は「ここまで成長できたのは、筑波大という環境とコーチ、監督、そして仲間のお陰。強みである走力を生かし、バランスのとれた選手になりたい」と意気込みを語った。筑波大生の指名は埼玉西武ライオンズに2位指名された佐藤圭輔投手（令和3年度体育専門学群卒）以来4年ぶり10人目で、野手としては初めてとなった。（山本貴世11国際総合学類3年、10面に関連記事）

岡城はドラフト会議当日、筑波キャンパス内のインビクタス・アスリート・パフォーマンス・センター（IPC）でチームメートや監督の川村卓教授（体育系）らと一緒に指名を待った。会議の中継画面を見た守っていたが、指名を受けた瞬間に驚いた表情を見

183センチ、体重82キロ。右投げ右打ちで、1塁到達のベストタイムは3.9秒。プロ野球でもトップクラスの俊足が持ち味だ。昨年12月には侍ジャパン大学日本代表候補補選強化合宿に初参加し、50メートルを5秒82を記録して1位となった。

だが、高校までは無名だった。地元の岡山県立岡山一宮高校（岡山市北区）に進んだ岡城の最高成績は、県大会2回戦。筑波大には、一般入試で進学した。入学後はウエートトレーニングで走力や打力を強化し、3年次にレギュラーの座をつかんだ。筑波大が加



阪神タイガースのグッズを身に着け硬式野球部の部員に胸上げされる岡城（10月23日、IPCで）＝川畑悠成撮影

盟する首都大学リーグでは昨年から3季連続で外野手部門のベストナインに輝いている。今年の秋季リーグ戦は打率3割5分3厘も貢献した。

川村監督は「入学したときは足が速い以外に目立つ選手ではなかった。課題を一つ一つ克服し、積み上げたからこそここまで来ることができた」と、岡城の努力を高く評価する。

阪神について岡城は「球団もファンも熱い人が多いイメージがある」と語り、「自分もそれに負けず、熱い、唯一無二の選手になりたい」と活躍を誓った。

岡城は11月1日に推定契約金6000万円、推定年俸960万円 で阪神と仮契約した。

三浦教授は「学生自身が研究していることや科学技術について、社会にどのよ



# 筑波大で41年ぶり膵腎同時移植

## 患者は退院 チーム医療で実現

筑波大附属病院は9月20～21日にかけて、茨城県内の30代男性患者に対し、脳死判定を受けた島根県の20代男性から提供された膵臓と腎臓の同時移植手術（膵腎同時移植Ⅱ<sup>①</sup>）を実施した。同病院での膵腎同時移植手術は、1984年に全国で初めて行なって以来41年ぶりだった。手術を受けた男性は10月末に退院し、現在は週に1回通院している。（青野心平）



膵腎同時移植手術に臨む筑波大附属病院の移植チーム＝同病院提供

出向いて20日早朝に摘出した臓器を筑波大附属病院に運び、同午後3時43分から移植手術が始まった。終了は21日午前0時55分で、9時間余りに及んだ。

移植を受けた男性は重度の糖尿病。慢性腎不全の合併症もあり、インスリン注射や週に3回の血液透析が必要な状態だった。同病院によれば、手術後は直後を除いてインスリン投与は受けていないという。

同病院は茨城県内で移植手術を手掛ける唯一の施設だ。腎臓移植は継続的に行ってきたが、人手不足などから、膵腎同時移植は84年以降されてこなかった。しかし、小田教授が6年

前に消化器外科・移植外科教授に就任し、同時移植への取り組みを始めた。小田教授は膵臓外科が専門で、関東で膵臓の移植手術ができる病院が少なく、なっていたことを懸念していた。「大学病院が移植の研究や治療をしない誰がやるのか」という思いだった」と振り返る。また、41年前に初めての同時移植をした医師から「膵臓移植のバトンをつないでほしい」と言われたことも背中を押され、移植手術ができる医師の育成から始めたという。

「移植手術は究極のチーム医療。今回、十分な体制が整ったので、手術を決めた」と小田教授は言う。だが、今後の移植医療の行方は不透明だ。移植医療には最高難度の外科手術手技が求められる。また、医師に加え、看護師や薬剤師、移植コーディネーター、他病院などとの連携が必要な総合診療だ。さらに、長時間の連続業務が求められる、脳死移植では緊急手術となる。このため、現在進む医師の働き方改革の枠組みをそのまま適用することは難しい。小田教授は「持続可能な移植医療体制の確立には、社会の理解を得て、新たな制度設計に取り組む必要がある」と指摘した。

# 学際創成学術院（仮称）27年度開設へ

## マルチメンター制で学問の壁越える

構成する学位プログラム	創成法学位プログラム	産学官連携学位プログラム（仮）	次世代エネルギー共創学位プログラム（仮）	ライフイノベーション学位プログラム	ヒューマニクス学位プログラム
課程	区分制博士課程	区分制博士課程	区分制博士課程	区分制博士課程	5年一貫制博士課程
関連分野	社会基盤と法理論、社会における法の实践など	ソーシャルイノベーション、科学技術政策など	物理、化学、情報科学、社会学、経済学など	生物情報、食料革新、環境制御、創薬開発など	医学、人間生物学、物質化学など
学位名称	修士（創成法学） 博士（創成法学）	修士（社会科学） 博士（社会科学）	修士（理工学） 博士（理工学）	修士（生物工学） 博士（生物工学）	博士（医理工学）
募集人数	博士前期課程 10人 博士後期課程 6人	博士前期課程 8人 博士後期課程 3人	博士前期課程 10人 博士後期課程 3人	博士前期課程 18人 博士後期課程 12人	一貫博士課程 12人

学際創成学術院（仮称）の全体概要 取材を基に作成

筑波大は新大学院組織「学際創成学術院G-SIGMA（仮称）」を2027年度に開設する構想をウェブサイトで公表した。文理の枠を超えて複数の専門領域を有機的に結び付けた新たな学術拠点として、高度研究人材や高度専門職業人の育成を目指す。その実現に向け、分野の異なる複数の教員から学生が研究上の助言を得られる「マルチメンター制」を導入するという。来年4月に仮公募案を公表し、同秋以降に学生募集を始める計画だ。（山本貴世）

▽ライフイノベーション▽ヒューマニクス――の五つの学位プログラムで構成される。「創成法学」では、人工知能（AI）などの科学技術が日常化する未来社会における法秩序の構築や法の役割を検討する。「産学官連携」では、産学官による人文社会科学分野のプロジェクトを推進する人材を育成する。「次世代エネルギー共創」は物質科学・エネルギー・計算科学が中心となる。「ライフイノベーション」は、筑波大が複数の研究機関と協力して学生を教育・指導する協働大学院方式で運営されている創薬や環境などに関連する六つの学位プログラムを統合する。「ヒューマニクス」は、医学やロボット工学などに広がるヒューマニクス学位プログラムとヒューマンバリエーション学位プログラムを発展的に統合する。これら五つの学位プログラムに所属する学生は、他

を生かし、大学を更に発展させていきたい」と抱負を語った。後任の副学長（教育担当）には学長補佐室長の竹中佳彦教授（人社会学）が就任した。補佐室長は兼務する。（飯野歩一第1類1年）

# 73<sup>キ</sup>級田中連覇 57<sup>キ</sup>級白金3位

## 柔道グランドスラム東京



決勝で木原を袖釣込腰で投げる田中（左）＝International Judo Federation 提供

【東京体育館（東京都渋谷区）で川畑悠成Ⅱ知識情報・図書館学類2年、12面に関連写真】世界最高峰の柔道国際大会「グランドスラム東京2025」が12月6、7日に開催された。田中龍雅（体専3年）が男子73<sup>キ</sup>級で2連覇を果たした。また、初出場の白金未桜（同2年）が女子57<sup>キ</sup>級で3位となった。

シードの田中は2回戦から登場。ロシアの選手に一本勝ちすると、続く準々決勝では自分より世界ランキング上位のロシア・シャヴダトゥアシウィリ（ジョージア）と対戦。開始3分8秒で小外刈で有効を奪い、そのまま優勢勝ちした。準決勝の相手は、今年9月に中国・青島で開催されたグランプリ大会で優勝した田中祐大（パーク24）。田中は先に指導二つを与えられる苦しい展開となったものの、技を奪われることなく、延長戦へ。田中は積極的な攻めに転じ、三つ連続で相手に指導が入り、7分25秒で反則勝ちした。決勝では木原慧登（東海

大）と対戦。両者とも技を決めきれないまま、延長戦に入った。田中は延長開始17秒で、相手の道着の裾をつかむと、そのまま袖釣込腰に持ち込んで技ありを奪い、勝利した。白金は、シニアの国際大会出場自体が初めて。1回戦はナカリヤンゴ・シャンディア（ウガンダ）と対戦し、開始13秒に小内刈を鮮やかに決めて一本勝ちすると、勢いに乗って2回戦、準々決勝と勝ち進んだ。そして、準決勝では11月の講道館杯決勝で敗れた大森朱莉（JRR東日本）と再戦した。試合は延長戦にもつれ込む。それまでに指導を二つ

# プロボスト職新設

## 教育・研究を統括



加藤光保プロボスト

筑波大は11月1日付で新たにプロボスト職を設置し、前教育担当副学長の加藤光保理事が就任した。学長の役割の一部を分担し、教育・学生・産学連携・研究を担当する4人の副学長を束ね、組織の垣根を超えた施策立案や運営企画・調整などを行う。プロボスト室も合わせて開設された。

# 短期雇用時給引き上げ

## 筑波1080円 東京1230円

筑波大は10月1日から短期雇用の時給を引き上げた。筑波キャンパスなど茨城県内は70円増の1080円、東京キャンパスなど東京都内は60円増の1230円となった。茨城県と東京都の最低賃金が10月から引き上げられたことに伴う措置。茨城県の最低賃金は前年比69円増の1074円、東京都は同

63円増の1226円に改定された。筑波大の短期雇用は、研究の実験補助や大学のイベントの運営サポート、講義室の節電巡回などが主な業務で、筑波大生を中心に10月現在で586人が雇用されている。（大成夏生Ⅱ第1類1年）







# 記者の声



青野心平

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

## 大学教育 多様な学生に対応する教育を 卒業が学びの終わりではない

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

と考えたからだ。1年間、さまざまな授業に顔を出した。その中でも、コーヒー豆をテーマにした国際学の授業は印象的だった。

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

と考えたからだ。1年間、さまざまな授業に顔を出した。その中でも、コーヒー豆をテーマにした国際学の授業は印象的だった。

# 筑波時評

今年9月に、文化庁から「国語に関する世論調査」(以下、本調査)の報告書が発表された。調査時期は1~3月である。毎年ニュースでもよく取り上げられ、特定の表現の正誤に焦点が当てられる。例えば今回は「役不足」という表現は「本人の力量に対して役目が軽すぎる」と「本人の力量に対して役目が重すぎる」のどちらの意味かという調査項目がある。

## 調査 言葉は柔軟で複雑な体系を持つ 正誤を決め過ぎようとしない

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

### 田川拓海

准教授 (言語学・日本語学)



人文社会系・准教授。筑波大学大学院人文社会科学部博士課程修了、博士(言語学)。2012年より現職。人文学類にて日本語の文章研究に関する授業を担当。

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

より重要になると感じた。

現代はVUCA時代と言われる。物事の不確実性が高く、将来の予想が困難な時代ということだ。大学での学びがいつまで通用するか分らない。加藤光保プロボストは本紙の取材に「カリキュラムに従ったレールの上を走る学びだけではない。『リキリ』と曲がったレールの上を走る学びが必要だ」と語った。特定の専門領域

の専門領域の教員に話しかけるように計らってもらえる。その先駆けとして、昨年度から1年生向けの授業「学問探究チュートリアル」が始まった。学生が自ら課題を設定し、学生2人にチュートリアル教員2人が配置される。問題は、受講者の少な

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

【6、7面参照】高校時代、大学で物理学を学びたいと考えていた。だが、進学したのは総合学域群だった。入学時点で専門を決めてしまつのは、早すぎる

# 反射鏡

## 留学考えていますか

国際協定の強化や持続可能な社会の構築に向け、政府は日本人の海外留学を推奨している。筑波大も、交換留学や短期海外研修などの制度を設けて、学生の海外留学を後押ししている。筑波大生の留学体験や留学希望の有無などについて、石の広場周辺で聞いた。(鈴木華二比較文化学類1年、望月柚那同1年、飯野歩同1年、大成夏生同1年)

【地球2年・男性】

【地球2年・男性】 留学はしてみたい。周囲の留学経験者の様子を見て、入学直後から語学試験の勉強を始めた。海外は開放感があり、中世の街並みが残るようなイメージがある。行きたい。首都プラハの観光も楽しみたい。

【社会学2年・女性】

【社会学2年・女性】 来年の秋からチェコに1年間留学する。都市社会学の勉強がしたい。海外に行くという経験をしたかった。

## 「成績評価方法見直し」どう思う

筑波大は学生の成績評価方法を見直した。授業時間とは別に実施していた「期末試験」による評価をやめ、「到達度確認」による評価を導入した。到達度は授業中の小テストなどで確認し、教員が学生に出題意図などをフィードバックするようになった。期末試験に代わる「確認テスト」も授業時間中に行うため、休み期間が短縮された。学生はこの変化をどう「評価」しているのか。石の広場周辺で聞いた。(大竹翔二文学類2年、吉田花二日本語・日本文学類1年、壬生泰太地球学類2年、飯野歩同1年、大成夏生同1年)

【人文2年・男性】

【人文2年・男性】 今まで以上にフィードバックを実施するようにしたい。フィードバックが実施されるようにしたい。フィードバックが実施されるようにしたい。

【社会学前期1年・女性】

【社会学前期1年・女性】 テストを除く授業日数が1と確認テストに移行することを知った。教員からはあきる量が減った。テスト期

い、自分でプログラムに申請した。周囲は現地の生徒と一緒に英語で行われる授業に参加し、放課後はお菓子パーティーなどをした。ホームステイ先のホストファミリーが、家族の一員として扱ってくれたことがうれしかった。留学を経験し、挑戦や失敗が怖くなくなった。英語力を向上させて、また留学してみたい。

【社会学前期1年・男性】

【社会学前期1年・男性】 留学をする気はない。性教育が充実している米国が、約1年間、公ボルドー大に留学し、育種学を学んだ。授業では日本の商業捕鯨再開などの議題を世界中の学生とディスカッションすることができ、世界から日本がどう見られているのを感じることができた。

【生物1年・男性】

【生物1年・男性】 語学留学をしたい。他の日本人と一緒に日本語を話してしまいたい意味がないので、一人で語学を学べる環境を重視したい。



イラスト：小川優羽 (人文学類1年)

【社会学前期1年・女性】 評価方法は移行したが、フィードバックに関しては、大きな変化はあまり感じない。また、長期休暇の日数が増えた実感はない。大学院生よりも学類生の方が、移行による影響を強く受けているのだから。

【社会学前期1年・女性】

【社会学前期1年・女性】 今年度は成績評価方法の移行期間で、期末試験を実施した授業もあった。フィードバックに期待していたが、それほど行われていない実感はない。

【心理学3年・女性】

【心理学3年・女性】 受講している講義の評価方法がレポートや小テスト中心なので、確認テスト移行による変化はあまり感じない。テスト期間がなくなることで、冬季休業がこれまでより早く始まり、帰省しやすくなった。

【社会学前期1年・女性】

【社会学前期1年・女性】 ティーチング・アシスタント(TA)をしている。担当した授業で、テストの後すぐにフィードバックを行ったが、3分の1程度の学生はその前に帰ってしまった。制度を変更しても、教員がフィードバックの実施に義務感を感じているように思える。移行前より休みの日数が増えたことで、その時間をアルバイトに充てた。一方で、授業日数が減った分、授業の進度が速くなった点はデメリットに感じる。

【社会学前期1年・男性】

【社会学前期1年・男性】 留学経験はないが、親の仕事の都合で、小学生の頃に米国やベトナムで暮らしていた。英語の習得に苦労し、英語が苦手な人の気持ちにわかるようになった。留学する機会があれば、一度も行ったことがないアフリカやオーストラリアに行きたい。

【資源4年・男性】

【資源4年・男性】 約1年間、公ボルドー大に留学し、育種学を学んだ。授業では日本の商業捕鯨再開などの議題を世界中の学生とディスカッションすることができ、世界から日本がどう見られているのを感じることができた。



## 学類をゲームで擬人化

### 「ITF! プロジェクト」雙峰祭で先行リリース



ブースでゲームを楽しむ来場者ら(11月2日、5C棟で)＝結城希撮影

筑波大の学類・専門学群を擬人化したキャラクターと交流しながら、主人公の総合学域群の学生（総合生）が学類移行を目指すノベルゲームを制作する有志学生チーム「ITF! プロジェクト」が今年の雙峰祭でゲームの先行リリース版を出展した。来場者は、パソコン上に表示された個性あふれるキャラクターと一緒に、筑波大の多様な学問

領域を探索していた。ノベルゲームは、文章を読み進めることを主体としたゲーム。それに画像や音楽などの演出が加わる。要所で提示される選択肢で何を選ぶかによって、展開や結末が変わる。プロジェクトの「ITF!」は「Izumi Tokimeki Fantasy」の略称「ITF」にかけた。2023年5月にプロジェクトはスタートし、現在は芸術専門学群の学生など25人が参加している。これまで、英語プログラム

の「地球規模課題学位プログラム」と「学際サイエンス・デザイン専門学群（マレーシア校）」を含む「29人」のキャラクターが完成した。プロジェクト代表の葛山小百合さん（芸専3年）は「1年生の時に筑波大の多様な学びを紹介する『学問への誘い』の授業を受けたが、学類が多すぎてどれがどれか分からないという声が出ていた。学類をキャラクター化すれば、その学問分野に親しみやすくなると思った」と振り返る。

キャラクターはあくまでフィクションだが、担当者が学群・学類について調べ、所属学生に話を聞くなどして制作している。雙峰祭では、会場に設置されたパソコンを使い、計59種類のシナリオをその場で楽しむことができた。正式リリースは来年6月の予定で、150種類のシナリオを含むウェブ版として公開する。誰でも無料でプレイ可能にする予定だ。

ゲームを体験した阿部田佳さん（人文1年）と橋本圭史さん（同2年）は「キャラクターに個性があり、自然な場面設定で展開されていくストーリーに引き込まれた」と満足げだった。葛山さんは「シナリオの追加やバグの修正などに取り組み、正式リリースにつなげたい」と話した。（大竹翔II人文学類2年、惣田堅斗II心理学類2年、3面に関連特集）

## 羊皮紙×メイド服

### 芸術祭でコラボ

中世と近代の欧州をモチーフにしたグッズ販売や展示を行う「Parchment Mount」が芸術祭の企画として11月2、3日に開催された。

会場は5C棟403教室は、欧州などで伝統的に使われてきた羊皮紙関連グッズや、19世紀に英国で広まったエプロンドレスを模したメイド服などが混然一体となった独特の雰囲気になった。

昨年までの年間、芸術祭で羊皮紙グッズを展示、販売する「羊皮紙屋さん」を展覧してきた藤川朋伽さん（芸術P前期2年）が、雙峰祭でのグッズ販売経験がある間宮詩乃さん（令和5年度人文学類卒）をゲストに招いて開いたコラボ企画だ。

藤川さんは一回500円で羊皮紙に絵や文字を書くワークショップを実施。参加者は羊皮紙のざらざらとした独特の質感の上に文字を書く体験を楽しんだ。また、中世の欧州で着られた丈長の上着「サーコート」も制作して展示した。この他、中世の絵画などをオマージュした缶バッジやシールも販売した。

間宮さんはガーリーな手作りアクセサリーやメイド服、カチューシャなどを展示、販売した。昨年の羊皮紙屋さんを受けて間宮さんが藤川さんに「一緒に商品を作りたい」と熱心にアピールしたこと

が、今回のコラボのきっかけ。藤川さんが制作したサーコートに、間宮さんがフリル付きの襟などの意匠をあしらった。2人は「コンセプトをすり合わせることに苦労したが、羊皮紙が見せるニッチな中世文化やメイド服が見せる華やかな近代文化を伝えることができてよかった」と話した。（大竹翔、3面に関連特集、12面に関連写真）



11月26日、筑波キャンパスで

この時期、大学構内を散策すると真っ赤な「いちい」の木の実に出会う。周りの果肉は甘く食用できるが、種子には毒がある。自然豊かなキャンパスの恵みをついばむ小鳥もつれそう。四季折々の楽しみを与えてくれたつばにも、冬が来る。（東風えまりII人文学類4年、写真も）

## 『言文対照漢訳日本文典』 松本亀次郎著



松本亀次郎

る身近な存在であったが、この一冊『言文対照漢訳日本文典』は、それまでのどの教材とも異なる精緻さと力強さを放っていた。100年前に、これほど完成度の高い日本語教材が存在したという事実が心に残る。松本が置かれていた頃のことである。中央図書館の2階と1階との間には、わずかに高くなった中々階のようなスペースがあり、その片隅に古びた書齋机が置かれていた。机の上には年代を感じさせる数冊の書物がブックエンドに挟まれて並んでいた。私は興味本位でそのうちの1冊を手に取り、思わず息をのんだ。それは、ちょうど100年前に刊行された日本語教科書だったのである。

実は本書の背景には、筑波大のルーツである東京高等師範学校の校長も務めた嘉納治五郎の存在がある。嘉納は1896

## 附属図書館で特別展

「災害の嘆きと笑いテーマ」を笑いや風刺に託して乗り切ってきた日本列島に住む人々の姿を紹介した。展示は5部構成。プロローグは古代中国の人々の災害観を伝える資料が展示された。江戸時代の「鯨絵」や過去の災害記録など、同図書館が所蔵する資料34点を展示。自然の猛威と向き合い、時には嘆きや苦しみを

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。

期間中の10月29日には、水野裕史准教授（芸術系）と白井哲哉教授（図情学系）がそれぞれ「日本美術に刻まれた破局と再生」と「記録された日本の災害―何をどうして、どのように」をテーマに講演した。特別展に訪れた木村夏乃

## 音楽会でハーモニー

筑波大生有志による合唱プロジェクトチーム「つぐばに歌を」が11月8日、ノバホール（つくば市吾妻）で開かれた「ノバホール音楽会」に参加した。同音楽会はずくば市民文化祭の一環で、音楽経験の有無に関係なく集まった約50人が2曲を披露した。合唱プロジェクトの実施と音楽祭への参加は昨年に続き2回目となった。

1曲目の「合唱」（信長貴富作曲／谷川俊太郎詩）では「合唱の声は人間を超えて宇宙の始まりに近づき

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。

期間中の10月29日には、水野裕史准教授（芸術系）と白井哲哉教授（図情学系）がそれぞれ「日本美術に刻まれた破局と再生」と「記録された日本の災害―何をどうして、どのように」をテーマに講演した。特別展に訪れた木村夏乃

「災害の嘆きと笑い」日本人の記憶と「こころ」が10月27日、11月21日に中央図書館1階貴重書展示室で開かれた。江戸時代の「鯨絵」や過去の災害記録など、同図書館が所蔵する資料34点を展示。自然の猛威と向き合い、時には嘆きや苦しみを

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。

期間中の10月29日には、水野裕史准教授（芸術系）と白井哲哉教授（図情学系）がそれぞれ「日本美術に刻まれた破局と再生」と「記録された日本の災害―何をどうして、どのように」をテーマに講演した。特別展に訪れた木村夏乃

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。

期間中の10月29日には、水野裕史准教授（芸術系）と白井哲哉教授（図情学系）がそれぞれ「日本美術に刻まれた破局と再生」と「記録された日本の災害―何をどうして、どのように」をテーマに講演した。特別展に訪れた木村夏乃

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。

## 田中祐輔 教授（日本語教育学）



田中祐輔 教授（日本語教育学）

人文社会系・教授。筑波大日本語・日本文学類卒。早稲田大学院日本語教育研究科修了。博士（日本語教育学）。早稲田大助手、青山学院大准教授などを経て、2024年より現職。

「嘉納先生傳」講道館41年、1887頁。こうした熱心な教育実践と研究を基盤とし、翌年に『言文対照漢訳日本文典』が刊行された。本書に序文を寄せた嘉納治五郎は、学説が定まって



洪水の被害を描いた絵図を鑑賞する来場者（10月29日、中央図書館で）

「災害の嘆きと笑い」日本人の記憶と「こころ」が10月27日、11月21日に中央図書館1階貴重書展示室で開かれた。江戸時代の「鯨絵」や過去の災害記録など、同図書館が所蔵する資料34点を展示。自然の猛威と向き合い、時には嘆きや苦しみを

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。

期間中の10月29日には、水野裕史准教授（芸術系）と白井哲哉教授（図情学系）がそれぞれ「日本美術に刻まれた破局と再生」と「記録された日本の災害―何をどうして、どのように」をテーマに講演した。特別展に訪れた木村夏乃

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。

期間中の10月29日には、水野裕史准教授（芸術系）と白井哲哉教授（図情学系）がそれぞれ「日本美術に刻まれた破局と再生」と「記録された日本の災害―何をどうして、どのように」をテーマに講演した。特別展に訪れた木村夏乃

「鯨をよさえる恵比寿」は、鯨をひょうたんや押さえつける様子が描かれ、どこか間抜けな鯨の表情が滑稽さを感じさせる。「地震雷過事親文」では、地震、落雷、火事を擬人化した鯨男、雷親父、炎人間の3人が食事を共にする様子がユーモラスだ。

第4章では、東日本大震災発生直後の附属図書館の様子や、その後の復旧作業の過程などを収めた写真を初展示した。







## 有志学生が学びをサポート

春日フーニングコンメンズ (KLC) は、知識情報・図書館学類の学生を対象に学習支援を行っている有志学生のグループだ。

図書館情報学図書館1階のデスクで、履修登録や図書館の利用法、授業の課題の解き方や論文のテーマ決めなどの相談にのっている。対応時間は授業日の午後4半〜8時で、予約なしで利用できる。

現在は計11人の学群生・大学院生がチャーターを務めており、代表の保坂美咲さん(知識4年)は「知識情報・図書館学類はフログラミングの授業が必修だ

戦することが多い。学生が、文系の学生は課題に苦

近な存在として気軽に相談してほしい」と話す。KLCは2008年に始

間利用者が延べ1000人を超えたこともあるという。だが、コロナ禍中は活

紙を見て本を借り、読み終えたら更に紹介を付け加えて返却する。そ

うして読み継いでいくことで、感動や共感などの輪が広がって

現在、チャーターたちが小説を中心に選んだ約20冊が用意さ

「寺子屋」で教員に相談

教員が個別に対応する。現在は理工学群で授業を担当する教員と、筑波大を退職した大嶋建一さんから7人のシニア・プロフェッサーが相談員を務める。

毎月平均で複数の利用者がいるといい、大嶋さんは「つやつやって勉強したら良いのか悩む学生が多い。1年かけて付き添うこともある。学生が学問を多面的に捉えられるようになったり、さらにはそうした学生が進級や卒業ができたりますように」と話した。

問い合わせはメールで(terakoya-soudan@sse.tsukuba.ac.jp)になりました。



学類の学生の相談に乗るチャーターの学生(奥) = KLC 提供

## 認知度向上させたい

多く、楽しんでもらえて

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談



「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

## Hello! 先端研究



吉田光男准教授



王巧さん

が暗号資産について肯定的なツイートをしたところ、その暗号資産の価格が高騰したケースなどがある。だが、こうした事例の分析は、X(旧ツイッター)など、投稿と反応に時間差があるものが中心だった。

対象とした動画は、日本の自動車メーカーが提供した車を中国のインフルエンサーが活用するというもの。公開後30日間に投稿された5万件以上の弹幕コメントを、投稿時刻や動画内の特定の位置を再生タイムスタンプなどの情報とともに収集した。

こうして集めたコメントを、テキストに含まれる感情を自動判定するソフトウェアを使って分類し、視聴者が示す行動パターンと感情との関係などを検証した。

その結果、多くの視聴者が、他者のコメントを模倣して自分も投稿する行動をとっていることが分かった。特に、動画で扱われている商品名を含むコメントなどは、関連

えは、コメントを繰り返す自己模倣をするユーザーは、商品に肯定的な感情を抱く傾向が強かった。ところが、動画を繰り返し視聴する行動と感情の間には、明確な関係は見られなかった。

また、吉田准教授は動画の視聴が自分だけでなく、他の視聴者にどう影響するかを解析した点に独自性がある。マーケティングの戦略立案などにも貢献するはずだ」と今後を展望した。(吉田花江日本語・日本文化学類1年)

「人間をやめて情報になった」と当時同級生に言われたことが、私は人間学類(現在は人間学群に改組・再編)に入学した後、担任の先生から転学類を勧められ、2年次から情報学類(現在は情報学群に改組・再編)に編入しました。小学生の頃からプログラムを書く、高校生向けのコンテストに出場したこともあったのに、「これは趣味レベル」と思い込み、将来やりたい職業と結びつきませんでした。数学の成績が悪かったこともあり、進路指導では文系を勧められました。

大阪出身の私が筑波大を選んだのは、親元から離れて一人暮らしがしたかったからと、大学を見学に来た時に広いキャンパスに憧れたからです

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

## 弾幕コメントが消費者行動に影響

動画分析で購買意欲との関連を示す

感情を自動判定するソフトウェアを使って分類し、視聴者が示す行動パターンと感情との関係などを検証した。

その結果、多くの視聴者が、他者のコメントを模倣して自分も投稿する行動をとっていることが分かった。特に、動画で扱われている商品名を含むコメントなどは、関連

えは、コメントを繰り返す自己模倣をするユーザーは、商品に肯定的な感情を抱く傾向が強かった。ところが、動画を繰り返し視聴する行動と感情の間には、明確な関係は見られなかった。

また、吉田准教授は動画の視聴が自分だけでなく、他の視聴者にどう影響するかを解析した点に独自性がある。マーケティングの戦略立案などにも貢献するはずだ」と今後を展望した。(吉田花江日本語・日本文化学類1年)

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

SNS(ネット交流サービス)や動画共有サービスなどのソーシャルメディアの普及は人々の交流方法を一変させた。

その中でも、テキスト情報を通じて共有される感情が、ユーザーの行動に影響を及ぼす事例が注目されている。例えば、テスラ社の最高経営責任者、イーロン・マスク氏

感情を自動判定するソフトウェアを使って分類し、視聴者が示す行動パターンと感情との関係などを検証した。

その結果、多くの視聴者が、他者のコメントを模倣して自分も投稿する行動をとっていることが分かった。特に、動画で扱われている商品名を含むコメントなどは、関連

えは、コメントを繰り返す自己模倣をするユーザーは、商品に肯定的な感情を抱く傾向が強かった。ところが、動画を繰り返し視聴する行動と感情の間には、明確な関係は見られなかった。

また、吉田准教授は動画の視聴が自分だけでなく、他の視聴者にどう影響するかを解析した点に独自性がある。マーケティングの戦略立案などにも貢献するはずだ」と今後を展望した。(吉田花江日本語・日本文化学類1年)

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

## 今の最善を選んで



外資系 IT 企業勤務 岩尾エマはるか さん

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談

「寺子屋」で教員に相談



東京・デフリンピック

遠山が自己新で優勝  
(体専 4 年)



表彰式でメダルを掲げる遠山（中央）と森本（左）  
= YUTAKA/アフロスポーツ

聴覚障害がある人の国際大会「夏季デフリンピック東京大会」が11月15～26日に開催され、遠山利生（体専4年）が陸上男子ハンマー投げで金メダルを獲得した。卒業・修了生では足立祥史（MITC・平成30年度障害科学類卒）が同男子1600リレーで金メダル、森本真敏（日神不動産・平成20年度体育専門学群卒）が同男子ハンマー投げで銀メダルを獲得した。

デフリンピックは1924年にフランスで始まった。今回は25回目で、東京では初開催だった。聴覚障害者スポーツの認知度向上を目的に、観戦は無料でチケットも原則不要だった。大会では、音の代わりに旗やランプを利用して選手への指示やスタート合図を行う。

男子ハンマー投げで優勝した遠山は感音性難聴。ろう学校に通っていた高校時代に森本の誘いを受けて競技を始めた。

大会では1投目からシー

ズンベストの56び86を記録、2投目でさらに記録を伸ばすと、3投目では自己記録を1び以上更新する60び19を投げた。

60び超えは自身初で、拳を何度も高く突き上げて喜びを爆発させた。今後は森本が持つ世界記録63び7の更新を目指すという。

遠山は「昨年夏以降けがが重なり、記録が停滞していたが、辛抱強く練習して、大会直前に手こずるような。今後は一般の大会で、健常者にも勝てるよう励む」と大会を振り返った。

また陸上競技部の大山下圭梧投てきコーチ（体育系・准教授）は「遠山は集中した時に出力の抑制を解くのがうまい競技者。チームメイトにも囲まれ

バドミントン

横内は第16シードで出場。過去に敗れたことがあった小原未空（明治大）に3



個人戦で競う全日本学生選手権（インカレ）が10月10～16日、ヤマト市民体育館前橋（前橋市）で開かれた。女子シングルスで横内美音（体専1年）が初優勝、男子ダブルスで野口翔平（同4年）・安保武輝（同3年）ペアが準優勝した。

（鈴木華井比較文化学類1年、松尾有姫同2年）



横内が女子単優勝  
野口・安保が男子複準優勝

て、人間的にも大きく成長した。この結果に満足せず、さらなる飛躍を遂げてほしい」と話した。

今大会には、筑波大の在校生と卒業・修了生、附属



賞状とトロフィーを手に笑顔を見せる横内  
= バドミントン部提供

を狙うクリアとネット際に落とすドロップを使い分けて相手を揺さぶり、21～14で先取した。

第2ゲームは粘り強くシャトルを追い、相手のミスを誘う戦術で21～19と接戦を制し、2～0のストリートで優勝した。

横内は「相手はダブルス

にも出場していた。第2ゲームは接戦になったが、第3ゲームにもつれ込んだとしても、体力的には自分の方が有利だと考え、落着いてプレーできた」と振り返った。今大会の活躍で出場権を得た12月の全日本総合選手権で、ベスト8以上を目指す。

昨年、ベスト4の野口・安保ペアは準々決勝で、日本大の後藤拓人・江口心ペアと対戦した。今年8月の東日本インカレで団体戦、個人戦ともに敗れた相手だったが、第3ゲームまでもつれ込む接戦を制した。「不安は大きかったが、勝ちたい気持ちが優った」と野口は振り返る。

そのまま準決勝も勝ち進み、決勝は昨年度準優勝の櫻井煌介・南本和哉（法政大）ペアと当たった。

第1ゲームは12～21で落ちた。気持ちを切り替え挑んだ第2ゲームは、野口が総合選手権で、ベスト8



日本人10位の記録を出した川崎（10月18日、国営昭和記念公園で）= 川畑悠成撮影

陸上

予選会は各校10～12人がハーフマソン（21・0975㍓）を走る。上位10人の合計タイムで10位までが本戦に出場できる。今回は42校が出場した。

筑波大の合計タイムは10時間44分3秒で10位の立教大とは7分7秒差だった。トップの中央学院大は10時間32分23秒だった。

川崎の記録は1時間20分20秒。13・7㍓付近で一時間

たが、他大学の実力が上がった。チーム2位は小林晴琉（同1年）の1時間3分20秒（全体64位）だった。今年の予選会は、暑さ対策のため例年より約1時間早い午前8時半にスタートした。午前8時時点の気温は16度で、スタート時点で23度を超えていた昨年よりも涼しい中でのレースとなった。

筑波大は上位10人の通過順位で、5㍓地点では9位、10㍓地点では10位と本戦出場圏内に入っていた。しかし、集団走で体力を温存していた他大学に後半、逆転を許し、本戦出場には届かなかった。

本路修平駅伝監督は「予選会突破に向けて、6月末からの約2カ月間を基礎体力強化に費やし、自信を持って予選会に臨んだ。選手たちは目標タイム（10時間44分）通りに走ってくれ

サッカー



サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

サッカー

【国営昭和記念公園（東京都立川市）で望月柚那Ⅱ比較文化学類1年、吉田花Ⅱ日本語・日本文化学類1年、川上真生Ⅱ社会学類4年、川畑悠成Ⅱ知情報・図書学類2年】第102回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）の予選会が10月18日に開催された。筑波大は16位で、第96回大会以来6年ぶりの本戦出場はならなかった。個人記録で筑波大トップ、全体19位となった川崎颯（体専3年）が、予選会落選校から選ばれる関東学生連合チーム入りをした。

6年ぶりの箱根ならず  
学生連合に川崎選出

日本人トップに立つ好走だった。チーム2位は小林晴琉（同1年）の1時間3分20秒（全体64位）だった。今年の予選会は、暑さ対策のため例年より約1時間早い午前8時半にスタートした。午前8時時点の気温は16度で、スタート時点で23度を超えていた昨年よりも涼しい中でのレースとなった。

筑波大は上位10人の通過順位で、5㍓地点では9位、10㍓地点では10位と本戦出場圏内に入っていた。しかし、集団走で体力を温存していた他大学に後半、逆転を許し、本戦出場には届かなかった。

本路修平駅伝監督は「予選会突破に向けて、6月末からの約2カ月間を基礎体力強化に費やし、自信を持って予選会に臨んだ。選手たちは目標タイム（10時間44分）通りに走ってくれ



2年ぶり17回目の優勝  
MVPはDF池谷

【筑波大学第一サッカー場（つくば市天王台）で山本貴世Ⅱ国際総合学類3年】筑波大は11月8日、関東大学部リーグの21節で流通経済大と対戦し0～2で敗れたが、勝ち点4点差で2位だった国士館大も同日の別試合で敗れたため、最終戦を待たずに2年ぶり17回目のリーグ優勝が決まった。筑波大は同16日の最終22節には勝利し、リーグ戦を16勝4分2敗で終えた。

リーグ戦MVPにはDF池谷銀彦（体専3年）が輝いた。また、ベストイレブンにはGK佐藤瑠星（同4年）、池谷、DF小川遼也（同3年）、MF矢田龍之介（同1年）が選ばれた。矢田は新人賞も受賞した。

試合前半は序盤から流通経済大がペースを握る。前半9分にコーナーキックのこぼれ球を押し込まれ、先制点を奪われた。同18分にはゴール正面のペナルティエリア手前でフリーキックのチャンスが訪れたものの、MF大谷湊斗（同1年）が蹴ったボールはゴール枠の上に大きくそれてしまつ。前半はそのまま0～1で終えた。

後半に入っても流通経済大ペースは続く。同8分には、コーナーキックからヘディングのこぼれ球をまたも押し込まれ、追加点を許してしまう。

筑波大はその後、攻勢に出た。後半12分には、MF徳永（同3年）からパスを受けたFW山下景司（同1年）がレフトからミドルシュートを放つが、相手GKに止められた。そのまま点を返せないまま時間が経



相手のディフェンスをかわすMF徳永（11月8日、筑波大学第一サッカー場で）= 川畑悠成撮影

き、0～2で敗れた。だが、同時刻に他会場では、国士館大も、後半戦に矢点して逆転負けしたため、筑波大の優勝が決まった。

試合後、主将のMF山崎太新（同4年）は「試合には負けたが、今回の優勝を自信につなげたい。12月にはインカレもあるため、残りのシーズンも蹴球部員が一丸となって頑張ってい

き、0～2で敗れた。だが、同時刻に他会場では、国士館大も、後半戦に矢点して逆転負けしたため、筑波大の優勝が決まった。

試合後、主将のMF山崎太新（同4年）は「試合には負けたが、今回の優勝を自信につなげたい。12月にはインカレもあるため、残りのシーズンも蹴球部員が一丸となって頑張ってい

き、0～2で敗れた。だが、同時刻に他会場では、国士館大も、後半戦に矢点して逆転負けしたため、筑波大の優勝が決まった。

試合後、主将のMF山崎太新（同4年）は「試合には負けたが、今回の優勝を自信につなげたい。12月にはインカレもあるため、残りのシーズンも蹴球部員が一丸となって頑張ってい







# ドラ3位岡城に聞く 「恩返ししていきたい」



入団する阪神タイガースのメガホンと、自身のサインボールを持つ岡城（11月14日、GSI棟で）＝川上真生撮影

【一面参照】プロ野球の新人選手選択（ドラフト）会議で阪神タイガースから3位指名を受けた岡城快生（体専4年）。岡山県の普通科高校出身で、筑波大には一般入試で進学した。高校時代の最高成績は県大会2回戦。野球の非エリートは、どうやってプロへの切符をつかんだのか。本人への単独インタビューを通じ、その歩みに迫った。

（川畑悠成）

野球を始めたのは小学校1年生の時。父親が野球好きで、3歳上の兄も先に野球を始めていた。当初は捕手をしていて、肘を痛めたことをきっかけに、内野手に転向した。

その後、地元岡山市の公立中で軟式野球部に入った。現在の身長は183センチだが、中学入学時は150センチほど。「力もあまりなく、硬式でやっていく自信がなかった」と振り返る。

高校は、家から通える一番近い普通科の公立高校である岡山県立岡山一宮高校（岡山市北区）に進んだ。公立高に入って勉強中心で頑張りつつ、野球もやりたかったという。

高校の野球部の練習時間は、朝練習を含めても1時間程度で、週に3日は休みだった。その分、練習の質

を意識するようになった。これは今も変わらない。

高校卒業後は地元岡山を含む中国・近畿地方の国公立大を目指していた。だが、野球部の監督に相談する中で、「自分の伸びしろを確かめてみたい」と思うようになった。そして、目指したのが国立大の強豪校である筑波大だった。

高校3年夏の部活引退後は毎日10時間以上も勉強に励み、合格を果たした。

そして入部した硬式野球部には、部員が約150人もいた。4・5月には1年生だけで練習する「新人練」があった。学生コーチから「周りが見えていない」「声が出ていない」などの初歩的な指導が厳しく入り、高校までの練習との違いを痛感したという。

夏には、内野手からチームで不足していた外野手に転向。「内野より考えることが減り、伸び伸びプレーできるようになった。バッティングの練習にも力を入れられるようになったので良かった」と語る。

身体づくりに取り組んだ。ウエイトトレーニングに週3、4回取り組み、食事はたんぱく質を中心に1日4000キロカロリー以上摂取することを目標にした。

硬式野球部は、選手からデータ分析担当やトレーナーなどのサポート役に回った学生がチームを支えている。岡城も学生トレーナーに日々の食事内容を報告し、アドバイスを受けていた。

1年生の時にはほとんど試合にでることがなかったが、こうした努力が実り、3年生になるとチームの主力選手に育っていた。

そして、意識し始めたのがプロの世界だった。

「アピールするために、3年時の首都大学野球秋季リーグでタイトルを取りたい。元々足の速さには自信があった。そこで、その年の夏は、打撃の強化に取り組んだ。苦手なインコースを克服するため、スイング速度や打球速度を計測できる機器を身に着け、数値を確認しながら打撃フォームの改良に取り組んだ。

その結果、秋季リーグで打率4割超えを果たし、ベリストナインに選ばれた。ベリストナインはこの秋まで3季連続で獲得している。

ドラフト当日を岡城は「名前が呼ばれてはっとした。」

が、こうした努力が実り、3年生になるとチームの主力選手に育っていた。

そして、意識し始めたのがプロの世界だった。

「アピールするために、3年時の首都大学野球秋季リーグでタイトルを取りたい。元々足の速さには自信があった。そこで、その年の夏は、打撃の強化に取り組んだ。苦手なインコースを克服するため、スイング速度や打球速度を計測できる機器を身に着け、数値を確認しながら打撃フォームの改良に取り組んだ。

その結果、秋季リーグで打率4割超えを果たし、ベリストナインに選ばれた。ベリストナインはこの秋まで3季連続で獲得している。

ドラフト当日を岡城は「名前が呼ばれてはっとした。」

た。会場も大々的に作ってもらったので、呼ばれなかったらどうしようかと思っていた」と振り返る。LINEやインスタグラムの連絡も400件以上来たという。

川村卓監督（体育系・教授）は「バッティングはこれから向上していくと思う。まずは守備と走塁で出場機会を得てほしい。いずれは走攻守三拍子揃った選手になってもらいたい」と岡城の将来像を話す。

今後は欠点がないオールラウンダーになることを目指す。「首位打者や、3割30本、30盗塁のトリプルスリー達成を目指したい。そして、ここまで育ててくれた人たちに恩返ししたい」と将来の目標を語った。

## 広告欄

掲載のお問い合わせは

shinbun@un.tsukuba.ac.jp

までお願いします。

## 研究機関合同説明会

### BHEが初開催 博士課程学生支援で

ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）は9月29日、公的研究機関を一堂に集めた「合同研究機関等説明会」をつくば国際会議場（つくば市竹園）で開催した。博士後期課程に在学中の大学院生を中心に学生84人が参加し、高エネルギー加速器研究機構（KEK）や産業技術総合研究所、医薬品医療機器総合機構など、国際会議場（つくば市竹園）で開催した。博士後期課程に在学中の大学院生を中心に学生84人が参加し、高エネルギー加速器研究機構（KEK）や産業技術総合研究所、医薬品医療機器総合機構など、国際会議場（つくば市竹園）で開催した。



採用担当者らの説明に耳を傾ける参加者（9月29日、つくば国際会議場で）

（I-IIS）とKEKの見学会も開かれた。

説明会では、各研究機関の採用担当者らが、業務内容や求める人材などの採用情報、福利厚生などについて説明した。また研究者から直接説明を聞ける研究機関もあった。

参加者からは「複数の研究機関の説明をまとめて聞くことができよかった」「修士課程以降のキャリアパスを考えることができ、などの声が聞かれた。BHEは研究機関も参加する企業説明会を開催してきたが、博士課程の学生のキャリア支援充実のため、研究機関に限った合同説明会を初めて企画した。

説明会は、博士後期課程の研究などを支援する科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究

プログラム」の一環として実施された。BHEの太田圭局長は「今後も説明会を開催し、博士課程を目指す学生の増加につなげたい」と話した。

30日の見学会には、博士人材育成コンソーシアム所属大学の博士後期課程学生と教職員の計39人が参加した。

I-IISでは柳沢正史機構長が取り組む睡眠研究に関する講演を聞いた後、施設内を巡って研究設備や内装について説明を受けた。

参加者はその後、筑波大のスローガン「IMAGINE THE FUTURE」などをラッピングした常南交通（本社・つくば市榎戸）所

有のバス「ITF号」に乗ってKEKに移動し、加速器などの実験施設を見学した。（壬生泰太 写真も）

## 留学生の声

スリランカ

アリアルシンハ・プルセン・

サットヤジット

人文学類

スリランカ西部のガンパハ県出身。今春、人文学類に入学し、日本語を学んでいる。日本語は母語のシンハラ語と語順が同じで、幼い頃から「話しやすい」と親しみを感

じたという。

地元のお寺に無料で言語を教えてくれるプログラムがあり、父に連れられ7歳の頃から日本語を学び始めた。中学までにシンハラ語と並んでスリランカの公用語のタミル

語を、高校までに英語と中国語を学んだ。

多数の言語に触れる中

日本で言語学を学んでみたいと思うようになった。

来日後はさいたま市に



で、わずかな発音の違いで意味が区別される言語の音の面白さに気づき、

当初は、高校卒業後の2020年に来日予定だったが、コロナ禍で延

## 日本語学に情熱注ぐ

おはあさんが畑作業の傍ら、流ちょうな英語で話しかけてくれたことをきっかけに、食事をこ馳走してもらったりするようになった。「人の温かさを感じた」という。

23年には埼玉県戸田市の外国人スピーチコンテストに出演。日本の四季折々の景観が見せる美しさや、病院で看護師から優しい言葉をかけてもらった実体験などを語り、最優秀賞に輝いた。コンテストにはおはあさんも駆け付け、「夢をかなえないさ」と激励を受けた。

筑波大に進学したのは、言語学の研究が盛んで、教員も多いことに引かれたからだ。授業では第二外国語に高校まで学んでいた中国語を選択した。来年はドイツ語も学

「将来は日本で大学教員となり日本語を教えたい。そのために日本語をさらに磨きたい」と意気込む。（大竹翔II人文学類2年、写真は本人提供）



## 学食のCO<sub>2</sub>排出量見える化 第3弾 学生が初算出 関連イベントも



CFP の認知度などを調べるパネルを手にする学生ら (11月19日、1A棟食堂で) = 壬生奏太撮影

学生食堂で提供されるメニュー、温室効果ガスの排出量を「見える化」するプロジェクト(ＣＦＰ)を表示したパネルが11月17日に始まった。今回の対象は1A棟食堂と第三エリア食堂。利用者が環境に配慮したライフスタイルを考え、行動に移すきっかけになれば「DESIGN THE FUTURE 機構」(DTF 機構)が主催した。12月19日まで。

CFPは原材料の調達から廃棄、リサイクルまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)に換算して表示する取り組み。DTF機構のプロジェクトでは、食材の調達から調理までの過程で排出される量を表示した。CO<sub>2</sub>の値が学食のメニューに表示されるのは昨年11月18日～12月20日に1A棟食堂と医学食堂で実施して以来。今年は食券の販売機のメニューを選ぶボタンにCFP値を表示し、利用者が食券を買う際に直接参照できるようにした。

また、混雑時に列がでるようなフロアには「学食の醤油ラーメン一杯は中央図書館前の広場の噴水1時間の稼働分と同じ」などと表示したステッカーを張り、利用者に呼びかけた。

さらに、対象食堂には「カーボンフットプリントって何？」などの質問を表示したパネルを置き、知っているかどうかを選んだ。

これらのイベントは、プロジェクトに参加した有志学生11人が中心になって企画。CFP値も、食堂運営するシダックスコントラクトフードサービス(本社・東京都品川区)からの情報を基に学生が初めて算出した。

プロジェクトに参加した上西豊莉紗さん(生物P前期1年)は「社会に役立てる取り組みがしたい」と考え、プロジェクトに参加し、CFPは手作業で計算したが、計算が楽にできるプログラミングにも挑戦したいと話した。(惣田聖斗、12面に関連写真)

## TUAN総会開催

### 世界中の同窓生つなぐ

海外に在住する筑波大の日本人卒業生や元留学生らによる同窓会ネットワーク「TUAN」の第2回総会とオンライン交流イベントが10月3日、スクエアドット・コムズで開かれた。総会には対面で25人、オンラインで50人が参加した。まず、役員人事が審議され、現代代表でホーチミン市立大学長のゴ・ティ・フォン・ラ博士など全役員が再任された。その後、再任された役員が「TUANを国際的な同窓会コミュニティとして確立・強化する」などの活動目標を発表し、了承された。

永田恭介学長もオンライン参加し、TUANを通じて世界中の同窓生や在学生がつながりを深め、互いの学びと成長を支えあっていることについて、謝意と期待の言葉を述べた。

続くオンライン交流会では、アフリカ市場に特化したコンサルティングやベンチャー投資など、研究科国際地域研究専攻修了生が活躍している「ダブルウェザー！パートナーズ」(本社・東京都渋谷区)の最高経営責任者(CEO)を務める武藤康平さん(平成25年度国際総合学類卒)と母国クワチアで人材コンサルティング会社を起業したネベン・ストビッチさん(平成26年度人文社会科学類卒)が、生物学科所属が多いiGEM TSUKUBAからは9人が出場し、英語でプレゼンテーションした。また、世界中の学生との交流を楽しんだ。

サフリーダーの國崎沙和子さん(生物3年)は「技術の悪用をどう防ぐか」というテーマで、既存のたんばく質の改良がより行われる。この手集して有用な機能を持たせたりする研究分野が「合成生物学」だ。学生がその成果を競う世界大会「iGEM」への出場を目指し、3年前から活動を開始した。

今年10月にパリで開かれた大会では、「タンパク質言語モデルを用いたタンパク質改良」をテーマに発表を行い、最高ランクのゴールドメダルを獲得し、Safety and Security部門の特別賞にノミネートされた。

「タンパク質言語モデル」とは、たんばく質を構成するアミノ酸配列を「言語」のように学習させた生成人工知能(AI)を使い、たんばく質の性質や機能を予測する手法のこと。iGEM TSUKUBAはこの手法を使ってたんばく質の機能を改良できることを実験で確認した。

医薬品開発などでは、既存のたんばく質の改良がより行われる。この手集して有用な機能を持たせたりする研究分野が「合成生物学」だ。学生がその成果を競う世界大会「iGEM」への出場を目指し、3年前から活動を開始した。



オンラインで世界を結んで開かれたTUAN総会＝国際局グローバル・コムズ提供

「ダブルウェザー！パートナーズ」(本社・東京都渋谷区)の最高経営責任者(CEO)を務める武藤康平さん(平成25年度国際総合学類卒)と母国クワチアで人材コンサルティング会社を起業したネベン・ストビッチさん(平成26年度人文社会科学類卒)が、生物学科所属が多いiGEM TSUKUBAからは9人が出場し、英語でプレゼンテーションした。また、世界中の学生との交流を楽しんだ。

サフリーダーの國崎沙和子さん(生物3年)は「技術の悪用をどう防ぐか」というテーマで、既存のたんばく質の改良がより行われる。この手集して有用な機能を持たせたりする研究分野が「合成生物学」だ。学生がその成果を競う世界大会「iGEM」への出場を目指し、3年前から活動を開始した。

今年10月にパリで開かれた大会では、「タンパク質言語モデルを用いたタンパク質改良」をテーマに発表を行い、最高ランクのゴールドメダルを獲得し、Safety and Security部門の特別賞にノミネートされた。

「タンパク質言語モデル」とは、たんばく質を構成するアミノ酸配列を「言語」のように学習させた生成人工知能(AI)を使い、たんばく質の性質や機能を予測する手法のこと。iGEM TSUKUBAはこの手法を使ってたんばく質の機能を改良できることを実験で確認した。

医薬品開発などでは、既存のたんばく質の改良がより行われる。この手集して有用な機能を持たせたりする研究分野が「合成生物学」だ。学生がその成果を競う世界大会「iGEM」への出場を目指し、3年前から活動を開始した。

### おこたわり

「追跡」結プロジェクトは休みました。

高校などでの教育活動もiGEMの評価項目の一つで、この2年間にいくつか市内の高校などで約20回、生物学の基礎的な実験手法などを教えるイベントを開催した。

Education班リーダーの岡達菜さん(同2年)は「高校生と年齢が近い大学生が、合成生物学の楽しさを広めることには大きな意味がある」と話す。

慢性的な課題が資金不足だ。iGEMの参加には、登録費用や参加費だけで100万円以上かかり、研究費や渡航費も合わせると300万円近い資金が必要になる。筑波大からの研究助成に加え、クラウドファンディングを毎年行っているが、厳しい状況が続いている。

主力だった3年生の引退を控え、現在は新メンバーを募集。メンバーの稲垣宏人さん(同)は「今入れば研究の初期段階から参加できる。ぜひ来てほしい」と話した。(山本貴世II国際総合学類3年)

## 自転車盗難被害半減 筑波大生 4～9月

今年度上半期の筑波大生の自転車盗難被害件数は17件で、昨年度同期の33件に比べ半減したことが、学生生活課への取材で分かった。盗難被害は学生から大学に届け出があったもので、筑波キャンパス外での盗難も含む。コロナ禍の2020年度は25件だったが、その後は増加傾向にあり、昨年度1年間では72件に達していた。同課は「毎年春と秋に実施する交通安全キャンペーンなどを通じて、二重施錠が浸透するなか、学生の防犯意識が向上したのではないかと考えている。」

同課は07年ごろから同キャンペーンを始め、12年ごろからは、茨城県警の協力でチェーンロックの無償配布も始めた。

同課によれば、施錠している自転車が盗まれることも多い。だが、チェーンロックを使って二重施錠すると、盗まれにくくなるという。今年度上半期の筑波大生の自転車盗難被害のうち7件は無施錠だったが、10件は施錠していた。

20年度以降の筑波大生の自転車盗難被害件数は以下の通り。20年度25件(施錠有7件、無施錠18件)▽21年度31件(施錠有14件、無施錠17件)▽22年度40件(施錠有14件、無施錠26件)▽23年度61件(施錠有23件、無施錠38件)▽24年度72件(施錠有27件、無施錠45件、不明2件) (壬生奏太)

## TWINS刷新 成績郵送は廃止

科目の履修記録や成績確認、大学からの情報提供に使用される教育情報システム「TWINS」が11月4日にリニューアルされた。基本機能はこれまでと同じだが、掲示の内容の一部がメールで配信できるようになった。また、学生の父母など用のアカウントが今年度中に発行される。これを使えば学生の成績をオンラインで確認できるため、郵送での成績通知は廃止する。

新機能は、教務情報システム運用委員会が「新しいTWINSにあってほしい機能」を教職員や学生から公募した際に要望が多く実現された。

筑波大は、TWINSのウェア掲示板に掲載した科目の履修記録や成績確認、大学からの情報提供に使用される教育情報システム「TWINS」が11月4日にリニューアルされた。基本機能はこれまでと同じだが、掲示の内容の一部がメールで配信できるようになった。また、学生の父母など用のアカウントが今年度中に発行される。これを使えば学生の成績をオンラインで確認できるため、郵送での成績通知は廃止する。



科目の履修記録や成績確認、大学からの情報提供に使用される教育情報システム「TWINS」が11月4日にリニューアルされた。基本機能はこれまでと同じだが、掲示の内容の一部がメールで配信できるようになった。また、学生の父母など用のアカウントが今年度中に発行される。これを使えば学生の成績をオンラインで確認できるため、郵送での成績通知は廃止する。

## iGEM TSUKUBA

生物を人工的に合成したり、生物の遺伝子を編集して有用な機能を持たせたりする研究分野が「合成生物学」だ。学生がその成果を競う世界大会「iGEM」への出場を目指し、3年前から活動を開始した。

今年10月にパリで開かれた大会では、「タンパク質言語モデルを用いたタンパク質改良」をテーマに発表を行い、最高ランクのゴールドメダルを獲得し、Safety and Security部門の特別賞にノミネートされた。

「タンパク質言語モデル」とは、たんばく質を構成するアミノ酸配列を「言語」のように学習させた生成人工知能(AI)を使い、たんばく質の性質や機能を予測する手法のこと。iGEM TSUKUBAはこの手法を使ってたんばく質の機能を改良できることを実験で確認した。

医薬品開発などでは、既存のたんばく質の改良がより行われる。この手集して有用な機能を持たせたりする研究分野が「合成生物学」だ。学生がその成果を競う世界大会「iGEM」への出場を目指し、3年前から活動を開始した。



研究内容を他大学の学生に説明するメンバー＝iGEM TSUKUBA 提供

## 合成生物学で社会課題解決

法が普及すれば、従来の手法に比べ、低コストで効率よく改良できるようなものになるという。

同大会には、高校生から大学院生まで世界約6000人、約400現在のメンバーは約25人に阻止するのかわという点に、特にこだわって研究してきた。評価されてうれしい。他大学の学生との交流も、良い刺激になった」と振り返る。

現在のメンバーは約25人に阻止するのかわという点に、特にこだわって研究してきた。評価されてうれしい。他大学の学生との交流も、良い刺激になった」と振り返る。



## Who's Who?

BHE所属の研究員としても活躍中

## 岸良隼人 さん (障害P後期2年)



外出時はサングラスと白杖で歩く岸良さん (10月24日、中央図書館前で)

目の難病「網膜色素変性症」の当事者でありながら、大学院で障害科学を専攻し、ヒューマンエンパワメント推進局(BHE)の研究員として障害学生支援にも従事している。「研究成果や支援の経験を生かし、大学でさまざまな困難に直面する人を減らしたい」と語る。

網膜色素変性症は、光を受け取る網膜の視細胞が徐々に機能を失っていく病気で、夜盲、視

野狭窄、視力低下の三つが主な症状だ。治療法は見つかっていない。

小学生の頃から夜に物が見にくいと感じていたが、周囲からは「ビタミン不足だ」と言われ、病氣だとは思っていなかった。診断がついたのは、大学入学後だ。元々教員志望で、「困難を抱えている人の助けになりたい」と障害科学類に進み、1年次に「障害学生支援技術」の授

業を履修した。その後、視覚障害のある学生を支援するピア・チューター(学習補助者)として活動する中で、網膜色素変性症の当事者である先輩と出会った。自身の夜盲症状を伝えると病院への受診を勧められた。その後、更に症状が進み、視野中心のごく狭い範囲しか見えなくなった。障害物や人にぶつかることが多く、案内看板を見逃して道に迷うこともある。白杖を持つようになっただけでは、知らない人に助けてもらうことも増えたという。

BHEの職員となったのは2022年秋。学類時代に自身も受講した「障害学生支援技術」の授業で、視覚障害や運動障害に対応するコースを受け持ち、支援が必要な学生へのピア・チューターの派遣も担当している。「自分にとっても、さまざまな障害がある学生の困難を知る機会になっている」と話す。現在の研究テーマは、自閉ス

## 入学後に目の難病が発覚

## 誰もが参加しやすい授業方法開発したい

ペクトラム症(ASD)のある学生を含む全ての学生が、グループ学習に参加しやすい学習環境の探求だ。

ASDのある学生には「自身の考えを他者に話す時の不安感が高い」「見通しのない学習活動への苦手意識が高い」などの特性があり、グループ学習に不安や困難を感じやすい。

これに対応するため、学生同士で話し合いをする上での役割やルールを事前に決めておくなどの方法を模索している。

この研究は自身の障害と直接の関わりはない。視覚障害に関連する研究をしようと考えた時期もあったが、「テーマを決める際に、自分の障害を気にしすぎなくていい」と障害のある先輩に助言され、視野が広がった。博士前期課程では、オンライン会議システム「Zoom」や2Dアバター(分身)ソフトを活用したオンライングループ学習の研究に取り組んでいた。だが、

が、視覚的な調整をしても、ASDのある学生の不安感ASDのない学生より高くなることになり、グループ学習の環境を別の観点から見直す今のテーマにたどり着いた。

こうした研究やBHEでの活動に取り組む過程で気付いたのは、障害のある学生が、支援を利用する際に「周りの目が気になる」「教員に支援を言い出しづらい」などの心理的障壁に悩んでいることだ。それを解消するには「周囲の学生や教員が障害学生の困難さや支援を受ける権利について理解を深め、社会全体で修学上の困難さを軽減する環境の在り方を探求し続けることが必要だ」と指摘する。

当面の目標は博士号取得だが、「その後も大学に残って研究に取り組み、障害学生の支援に携わってきたい」と、未来を見据えている。(結城希二 国際総合学類3年、写真も)

次号は

2月18日(水)

発行予定です

発行所 筑波大学印刷リリウム

ほか編集部員20人

■筑波大学新聞編集委員会  
▽委員長 内海真生(生環系・教授) 水環境生態工学  
▽副委員長 中澤秋夫(学生部長) 中澤秋夫(学生部長) 助教 憲法・平和研究、嵯峨寿(体育系・准教授) レジャール・スポーツ産業論、永森光晴(図情メ系・講師) セマンティックウェブ・メタデータ

■筑波大学新聞編集部  
▽編集代表 鴨志田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション  
▽編集長 山本貴世(国際総合学類3年) 副編集長 松尾有姫(比較文化学類2年) 川畑悠成(知識情報・図書館学類2年)

## 柔道グランドスラム東京



3位決定戦で袈裟固を決める白金(右)(12月6日、東京体育館で) = 川畑悠成撮影

2面へ

## 雙峰祭 後夜祭花火



雙峰祭の最後に打ち上がった花火(11月3日、石の広場で) = 川畑悠成撮影

3面へ

## 欧州伝統の羊皮紙紹介



来場者に羊皮紙を解説する藤川さん(11月2日、5C棟で) = 吉田花撮影

5面へ

学食のCO<sub>2</sub>排出量表示食堂の床にメニューのCO<sub>2</sub>排出量を示すステッカーを張る学生(11月19日、1A棟食堂で) = 壬生奏太撮影

11面へ

学内総合

ミニ特集

学芸

学生生活

## 編集後記

生や宿舎に住む学生にとって、日々の暮らしに直結する問題です。少子化が急激に進む中、大学教育の在り方も見直しが求められています。筑波大はどう対応しようとしているのか。その現状を特集しました(6、7面)。学生の学びの姿勢も問われています。今年度から成績の評価方式が変更され、授業時間外の期末テストがなくなりました。学々